

今夏の富士山開山に向けた取り組みを語る川勝平太静岡県知事(静岡県庁)



富士山を共有する静岡、山梨両県は新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、今夏の開山に向けた準備を進めている。両県が条例で定める23日の「富士山の日」に合わせ、川勝平太静岡県知事にコロナ禍の富士登山のあり方や両県交流の取り組み方針などを聞いた。

—今夏の開山に向けた思いは。

「昨夏は新型コロナウイルスの影響でやむを得ず開山できなかった。今夏は感染症対策を徹底し、山梨県と情報を共有して安全登山を提供する。首都圏はいわば『ピルの山』。そこに住む人たちが行きたいのは自然豊かな地域で、富士山周辺への憧れが強い。人の交流と移住を念頭に置いて富士山を開山していく」

—具体的な感染症対策は。

「密閉、密集、密接の3密があつてはならない。山小屋の予約状況や登山道の混雑状況の情報を登山前に提供したい。混雑を防ぐために登山者数の管理に努め、間隔を空けた登山を呼び掛ける。検温と体調チェックをきちんと行い、登山者から陽性患者

静岡・川勝 平太氏

両県知事
インタビュー

感染症防止にあらゆる策

が出た場合にも備えて態勢を整えたい。山小屋が実施する間仕切りや換気設備などの感染予防策については援助する」

—入山料の法定外目的税化に向けた検討状況は。

「入山料は富士山の環境保全に活用するため原則1人千円を呼び掛けてきたが、例年、支払わない人がいて、不公平感が生まれた。利用者全員の負担が基本だ。法定外目的税を導入し、一種の強制力を持たせることが必要だ。税なので不公平感があつてはならない。登山者を把握するのが大きな課題で、徴収の人的費もかかる。徴収方法については有識者の専門委員会で議論が始まったばかり。導入までは若干の時間を要するとみている」

—静岡、山梨両県による地域経済交流「バイ・ふじのくに」の展開は。

「互いの県産品や観光サービスを買って、困っている人を助けることがポイントだ。両県の誰もが自由に参加できる。モノや人が動くとお金も動く。物流、人流には道路が必要。中部横断自動車道が全線開通し、往来が増えれば、一体感はぐんと深まる。長野、新潟を含めた経済圏域をつくり、ポスト東京の時代を開いていく」

—山梨側で検討されている富士登山鉄道構想への所感は。

「登山鉄道は楽しそうないイメージだが、富士山の普遍的価値を守るのが基本的な使命だ。工事するからにはそれなりの影響があるはず。学術委員会は計画と事業の各段階で遺産影響評価(HIA)の実施を求めている。登山鉄道は長崎幸太郎山梨県知事の公約だと聞いている。静岡、山梨の全体のためになるのであれば議論を尽くし、両県民にことほがれる形で事業が進めほしい。私は足を引っ張るつもりはない」

(聞き手＝政治部・鈴木文之)